



幡羅遺跡ファンクラブ会報

# ハラ君通信



2017年（平成29年）11月18日発行  
幡羅官衙遺跡群 国史跡指定おめでとう第3号☆

はらかんが  
幡羅官衙遺跡群が  
国史跡指定されることが  
決定しました！

幡羅官衙遺跡（深谷市）と西別府祭祀遺跡（熊谷市）とを合わせた幡羅官衙遺跡群が国の史跡に指定されることになりました。

幡羅遺跡の発掘が2001年（平成13）に始まってから苦節16年。発掘を担当されていた調査員の方々は、喜びもひとしおではないでしょうか。

ここに、埼玉新聞（社会面）に載ったコメントを引用させていただきます。

まず、深谷市教育委員会文化振興課の知久裕昭さん。「ようやく今までの苦勞が実を結んだ。調査に携わった人、地権者の協力があったからこそやって来られた。」

そして、熊谷市立江南文化財センターの吉野健さん。「ようやく念願がかなった。ただ、まだスタートラインに立ったにすぎない。地域振興や観光振興を含め、史跡の保存や管理、活用について検討をすすめていきたい」

国指定が決まったことで、法律で、幡羅官衙遺跡群は守られることになりました。これからは、「関東の明日香村」として、地域の人々に愛され、気持ちの面でも大事に守られるよう、幡羅遺跡ファンクラブも応援していきたいです。

11月18日（土）  
埼玉新聞1面トップ記事で掲載されました！



11月20日（月）深谷市役所本庁舎に、お祝いの垂れ幕が出されました！ 3ヶ月間出ているそうです。ぜひ見に行きましょう。



## ハラ君エピソード0 (ZERO)

幡羅遺跡のマスコットキャラクター、ハラ君には、モデルがあります。人面線刻土製支脚（幡羅遺跡19次調査区から出土）に描かれたカマドの神様です。同じようにカマドの支脚にカマド神の顔が描かれている例は、千葉県飯積原山（いづみはらやま）遺跡から出土した1点のみで、とても珍しいものだそうです。さて、人面線刻土製支脚（以下、ハラ君と略）は、どのようにして発見されたのでしょうか。紙面担当のSが書いてみたいと思います。

—2007年、冬— 幡羅遺跡発掘現場のプレハブ内で、15人位で、土器洗いの作業をしていました。土器洗いは、発掘された泥だらけの遺物を、きれいに洗う作業です。

誰だったか思い出せないのですが、「あっ、土器に顔がある！」って声があがって、皆びっくりして、その方の所に見に行きました。「本当だ、人の顔みたい」「すごい」皆口々に言って眺めていました。私も見せてもらって、「かわいい顔してるなあ」と思ったら、うらやましくなり、「いいなあ、私、それ洗ってみたいです。」と頼んでみました。すると、年長のその方は、「いいよ。もう途中まで洗ってあるけど、それでよければ」私は、「大丈夫です。続きからやりますから」と言ってハラ君を受け取りました。長く一緒に働いているので、皆家族のような存在で、1番年下だった私の願いを聞いてくれたのでした。洗いながら、ハラ君を観察します。ハラ君は、ちょうど手のひらに乗るサイズですが、左手に乗せるとずっしりと重さがあります。（石？に顔が彫ってあるのかな。真上から見ると人工的な円筒形で、角のところが丸くなって、自然の風化というよりは、人が加工した跡があるみたいだ。首から下は欠けているけど、後から見つかるんだろうか。それにしても、なんだろう、この白すぎる石は・・・）などと色々考えました。洗い終わると、左手に乗せて、ハラ君の顔をまじまじと眺めます。「赤ちゃんが、眠っているみたいな顔をしてる」と思いました。頭もくりくりしているので、つい、右手を頭に乘せて「よしよし、いい子、いい子」と頭をなでてみました。

「うん、心なしか、うれしそうな顔をしている」私は、すっかりハラ君に愛情がわいてしまいました。その時、知久さんが土器洗いの経過を見にやってきました。ハラ君を早く見せたくて、外に出ました。私は、ハラ君の顔がよく見えるように知久さんに向けて、言いました。「すごくいいものが出たんです。見てください！これは大発見ですよ！石に人の顔が彫ってあるんです。こんなの見たことありますか？早く記者会見をして、新聞発表したほうがいいですよ！」知久さんは、ハラ君を受け取ると、ふーん、と冷静に眺めていました。

そして一言、「気のせいだよ・・・」

（私）「ええっ!？」

—2010年、夏—

江戸東京博物館に、発掘の仕事仲間と来ていました。企画展「発掘された日本列島2010」と地域展「古代武蔵の国の郡衙」を見学するためです。

地域展の所に行くと、ハラ君が大きなショーケースの中に単独で展示されていました。一緒に見学に来た人達が、ハラ君を見つけてうれしそうに眺めます。もう、ハラ君は人気者です。



う、ハラ君は人気者です。

「私のハラ君が、立派になったなあ」心の中でそう思いました。

2008年の7月、ハラ君は新聞発表されました。知久さんが、色々調べたり、勉強したりして、カマドの神様だとわかったようです。ハラ君は石ではなくて土器だったり、色が白すぎたのは、漆喰（しっくい）のようなものがぬらっていたことがわかりました。ハラ君の顔も、赤ちゃんなのか、子供なのか大人なのか、今のところはよくわかりません。

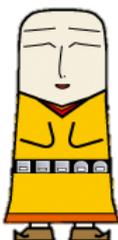
「もう、みんなのハラ君になったんだな」と思うとうれしいような、淋しいような気持ちになりました。でも、ショーケースの中のハラ君は、なんだかとても凛々しくて、かっこよく見えました。

## 幡羅遺跡発掘 16年のあゆみ

年	発見された主な遺構	日付	新聞の見出し、主なイベント（現地説明会、企画展）
2001年（平成13年）		5月31日	奈良時代の郡役所倉庫 徴収した稲を保管？（読売）
	正倉跡の発見	11月23日	古墳の上に穀倉跡 律令国家への推移を示す（読売）
		12月2日	現地説明会〔1次、2次調査〕調査担当者：青木克尚 <sup>さん</sup>
		12月15日	深谷市歴史セミナー2001 「古代の役所 中宿と幡羅」講師：鳥羽政之 <sup>さん</sup> 〈深谷市コミュニティセンター大会議室〉
2002年（平成14年）		10月13日	現地説明会〔3次調査〕
	多数の正倉群発見		調査担当者：知久裕昭 <sup>さん</sup> （3次～35次）
2003年（平成15年）		12月21日	珍しい土塁跡（読売）
	曹司（そうし）跡の発見	12月23日	現地説明会〔4次調査〕
2004年（平成16年）		1月20日	「関東の明日香村」と期待大
	炭化米の発見 （火災で焼失した 正倉跡付近 <sup>より</sup> ）		古代ロマン広がる深谷、熊谷の3遺跡（埼玉）
		10月19日	正倉跡に多量の炭化米（朝日）
		10月31日	現地説明会〔5次～7次調査〕
2006年（平成18年）		6月30日	前後左右に廂（ひさし）持つ館「国指定史跡に」（読売）
	たち びさし 館【四面廂】跡 鍛冶（かじ）工房 跡の発見		四面廂とり入れた「郡の館」 「全国初、規模も最大」（東京）
		7月1日	四面廂付き「館」跡発見 「平安の郡役所で全国初」（朝日）
		7月8、9日	現地説明会〔19次調査〕
2007年（平成19年）		6月9日	幅9m古代の「メイン道路」 「政庁」跡探索に弾み（読売）
	古代の道路跡発見		現地説明会〔21次調査〕
	人面線刻土製品 （ハラ君）発見！ 幡羅遺跡のマスコット キャラクター （ハラ君）登場	冬	19次調査区出土遺物の整理作業中 発見される
			人面線刻土製品に描かれたかまどの神様を モデルにして、知久さんが下絵を描き、 幡羅遺跡のマスコットキャラクターができる
2008年（平成20年）		5月14日	大型建物跡発見 「面積108平方メートル 奈良時代」（朝日）
	館跡、曹司跡、発見		行政実務の建物跡？発見（読売）
		5月14日 ～16日	現地説明会〔30次、31次調査〕

人面線刻土製品 (ハラ君) 新聞発表	7月3日	人面描かれた土製品発見 「かまどの支脚部分？」(朝日)
	7月8日	深谷で「竈(かまど)神」発見か 「幡羅遺跡で人面土製」(埼玉)
一時的な物資を収納する 大型倉庫跡発見	7月18日	県内最大級の建物跡(朝日)
	7月19日	現地説明会〔32次調査〕
	11月1日 ~30日	企画展「律令時代の郡役所」〈川本文化財センター〉
2010年(平成22年)	6月5日	企画展「発掘された日本列島2010」
人面線刻土製品(ハラ君) 深谷市外に初出展	~7月25日	地域展「古代武蔵の国の郡衙」〈江戸東京博物館〉
2011年(平成23年)	1月23日	シンポジウム「郡家の成立と機能」 —幡羅遺跡をめぐる諸問題— 〈深谷市民文化会館小ホール〉 定員300名
幡羅遺跡シンポジウムが 開かれる	1月15日 ~2月20日	企画展「古代郡役所の風景」 —幡羅遺跡と御子ヶ谷(みこがや)遺跡(静岡県藤枝市)— 〈深谷市立図書館3階展示室〉
	2012年(平成24年)	1月21日 ~3月20日
人面線刻土製品(ハラ君) 企画展出張で大忙し	8月3日~5日	企画展「発掘!! 古代の役所」 北関東の郡衙伊勢崎に大集合〈スマーク伊勢崎〉
	2017年(平成29年)	3月4日
幡羅官衙遺跡群 国指定史跡に決定!	11月18日	国指定史跡に指定へ 深谷・熊谷幡羅官衙遺跡群 「古代役所知る上で貴重」 「国の宝」「念願かなった」「調査担当者の思い結実」(埼玉) 幡羅官衙遺跡群国史跡に 「文化審答申 古代の役所跡」(読売)

幡羅遺跡の歴史は  
まだまだ続くよ!  
これからも  
よろしくね



### 今後の幡羅遺跡関連イベント☆2018(平成30年)☆

1月14日(日) 午後1時30分~4時

国史跡指定記念

歴史講座『古代の幡羅郡役所』〈幡羅公民館大会議室〉

(ハラ君通信編集部) ☆ハラ君(編集長)

☆島崎祐子(紙面担当)☆大沢大美(幡羅遺跡ファンクラブ F.C 幹事)☆上野享子(同幹事)